

日本橋における首都高の再解釈

□コンセプト

現在、首都高の老朽化が進み様々な地点で修復工事が行われている。日本橋周辺の首都高を地下化させ撤去してしまうことに疑問を感じ高架を利用した遊歩道を設計した。

□プログラム

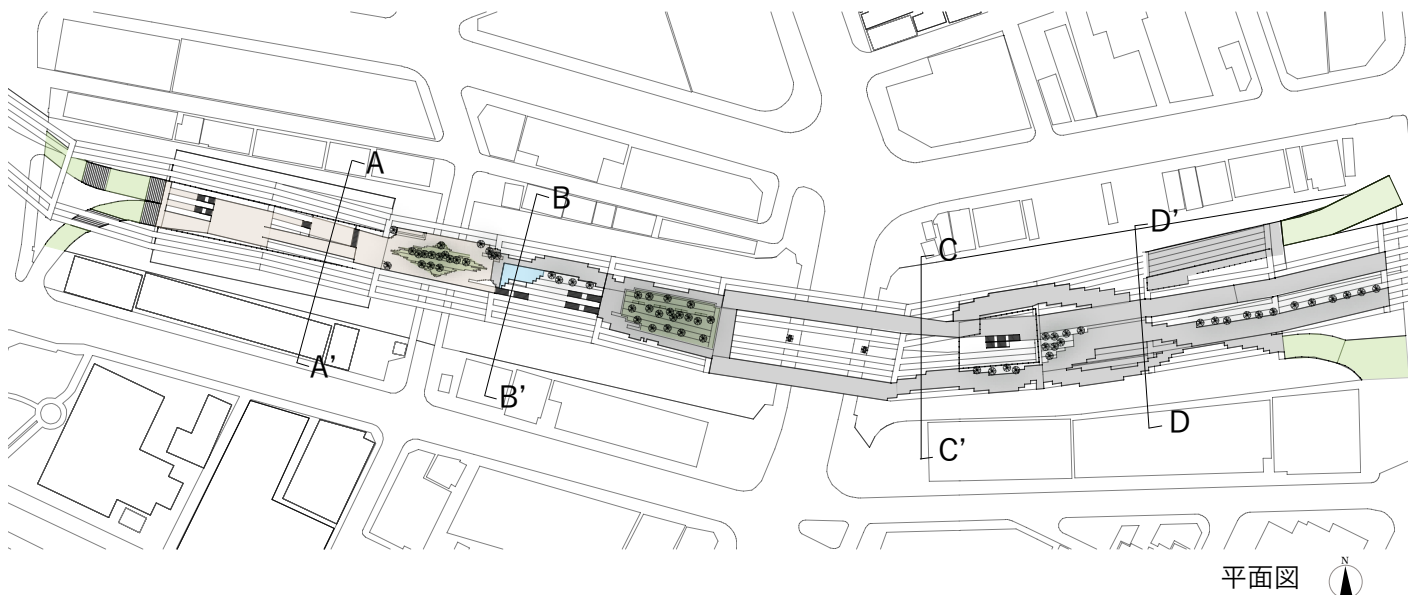
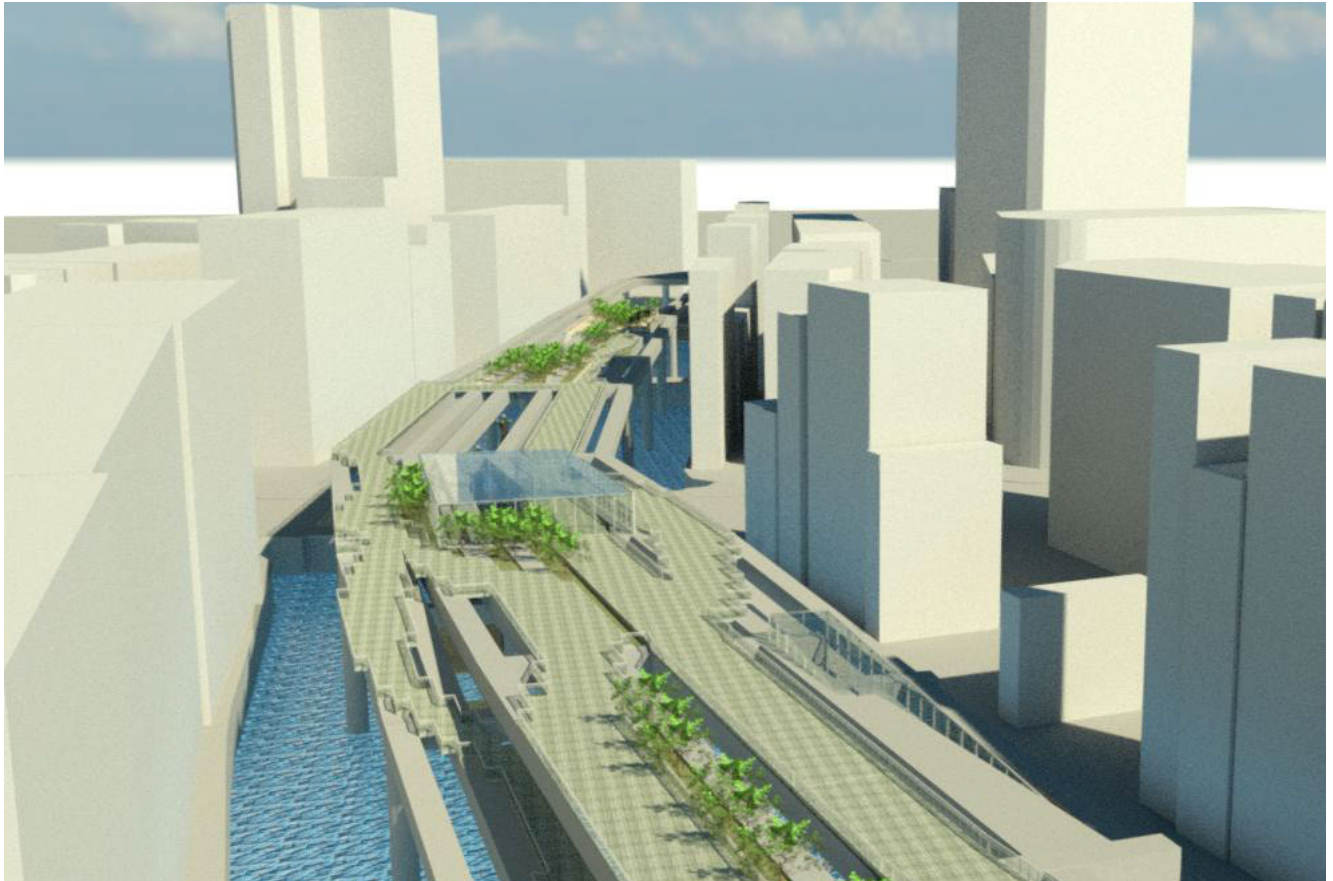
オフィス街を結ぶ道の先に船着き場を設計した。お堀の水路を利用して水面からも遊歩道を楽しめるよう考えた。水面、構造、遊歩道と三層にわたり設計することでインフラが地層のように積み重なっている日本橋に新たに層を積み重ねた。

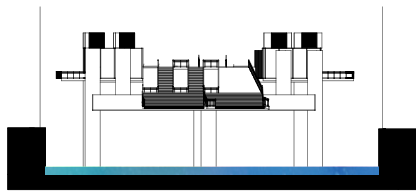
□デザイン

梁の裏面にステンレスの板を入れ構造を補強すると共に鏡面仕上げにすることで水面の光の反射で高架下の空間に光を取り込むことができる。また、梁と道の高さを調整し梁の上に座ったり道から梁が飛び出してきたりしている様にデザインした。

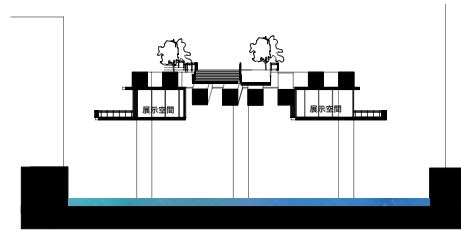


古峰丈瑠
建築設計計画 | 研究室

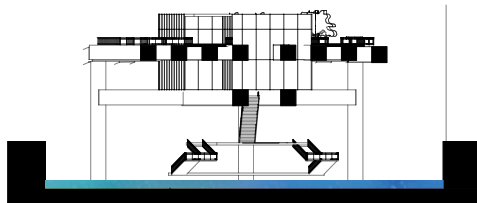




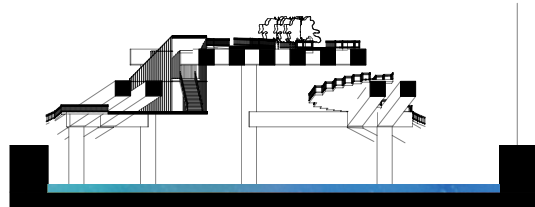
A-A' 断面図



B-B' 断面図



C-C' 断面図



D-D' 断面図

日本橋 インフラ地層図

